

ま いた さい

川柳



タンポポ

卷頭言

五輪の祭典といふこと

全世界に新型のオミクロン株が蔓延する中で、北京冬季五輪が開催された。そんな折、古代オリンピックにふと心を寄せてみた。ギリシャは多くの島々や都市（ポリス）からなり、常に戦いが絶えない地域であったとか。そんな中、ゼウス神に捧げる祭典として、紀元前七七六年から紀元後三九四年まで実に約千二百年もの間、四年に一回の競技会が行われたという事実には驚く。しかもその競技会前後各三ヶ月は戦闘は停止され、競技だけではなくあらゆる催事が企画され享楽に耽っていたと言うから、又驚く。

願法みつる

日日是好

言の葉の裏と表がもめている

冬枯れの都をだます濃い緑

今はヒト明日は犬猫神の鞭

島国の強さ弱さへ八百万

気圧の差ミリミリバール知る鰐

太平の野辺野暮な色恋

沈黙は金ひろう百円

黒旗振つて攻めてくる敵

臆病風に居酒屋で飲む

そしてIT化・ロボット化が進んでゆく近未来の地球上では、人間性もまたこのままでは在り得ないと想像できる。そうなると、ロボットが描く「平和と友好の祭典」はどうなるのだろう。



令和4年(2022年)
3月号 (No.748)

日川協加盟